

～ 自治体を中心に取引を拡大 ～

(有)エコ・ライス新潟

(新潟県長岡市) (通信販売・加工業)

活用する地域資源：新潟米



【はんぶん米】

事業の成果・波及効果

災害時の備蓄食として自治体へ説明を行ってきた結果、平成20年度より東京都で備蓄が開始され、現在までに新潟県や水戸市など14の自治体で契約が成立。

これまでに約22万パックが製造・販売されている。

東日本大震災後、(社)全国腎臓病患者協議会の要請により災害食支援を実施。岩手県に4回、宮城県に2回、福島県に3回現地を訪れるなど、これまでに4700食の無償支援を行った。今後も要請があれば、順次宅配にて対応予定。

春陽などの新形質米を栽培普及することで、コシヒカリ以外の品種の作付けが進み、生産者の収入増加につながる。

事業の特徴(ストーリー)

- 平成14年の設立以来、環境にやさしい栽培方法に取り組み、本年の作付けは無農薬栽培米約26ha、特別栽培米約56haを予定。
- 平成16年の新潟中越大地震で会社が被災し、生産者や従業員も避難所で生活した際、人工透析患者や糖尿病患者などの食事制限者が、配給される非常食を食べられないという現実を知った。
- 設立当時から低タンパク米「春陽」を特別栽培していたことから、震災の体験を基に食事制限の方でも安心しておいしく食べられる新しいアルファ米「はんぶん米」の開発が始まった。

成功のポイント

- 「はんぶん米」のPRを図る際に、食事制限者や高齢者など災害時要援護者の実態を、自治体等に提言ができた。
- 「製造特許」「実用新案」を取得して、独自の製法を確立した。
- 開発・販売について、(財)にいがた産業創造機構、(独)中小企業基盤整備機構等の支援を受けた。
- 米の加工を手がけたことで、一次産業から二次産業へ脱皮、経営の多角化が図られた。また、食事制限者が食べられる備蓄食は、新たな特産品として位置付けられている。